

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：13601
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：25770222
研究課題名(和文)クリティカル・リーディングのための英語教授法開発

研究課題名(英文)Developing a pedagogy for critical reading

研究代表者
田中 真由美(TANAKA, Mayumi)
信州大学・学術研究院教育学系・助教

研究者番号：50469582

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の中等教育段階の英語学習者を対象にしたクリティカル・リーディングの英語教授法の開発研究である。クリティカル・リーディングのための枠組み構築と、枠組みを使用した指導事例の作成を行った。クリティカル・リーディングの枠組みは、テキストの書き手、読み手、その他の読み手の視点から、テキストで使用されている表現や情報を根拠に解釈したり、社会文化的コンテキストと関係づけて解釈するためのキー・クエスチョンで構成されている。この枠組みは教師の発問づくりに役立てられるよう作成したものであるが、学習者が自ら読みの観点や問いを作って主体的に読み進めるために役立てられることも示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a pedagogy for critical reading in the context of Japanese secondary schools. A framework and sample lessons for critical reading were developed. The framework comprised key questions for textual and socio-cultural interpretations of texts from the perspectives of the writer, reader, and others. The framework was developed mainly for English teachers so that they can refer to it when they devise questions for critical reading; it was also suggested that by referring to the framework, students could decide on the perspective from which they choose to read, and thereby actively engage with the text.

研究分野：言語学・外国語教育

キーワード：クリティカル・リーディング 英語教育 発問 クリティカル・リテラシー

1. 研究開始当初の背景

(1) 国内の研究動向

中央教育審議会高等学校教育部会において、市民生活を送るための市民リテラシーの一つとして、「証拠に基づく論理的で偏りのない思考」、「内省的思考」、「問題解決や判断を支えるジェネリック（汎用的）スキル」である批判的思考力の育成が提唱されている（楠見，2012年）。また、PISA型の読解力育成の観点から、クリティカル・リーディングは、文章や図表などのテキストを読んで正確に理解した上で、テキストの構成や結論、作者の意見は本当に正しいかについて分析、評価、批判したりすることと定義され、主に、国語教育研究においてその取り組みが紹介されている（有元，2008年）。高校の英語教育では、クリティカル・リーディングの実践報告（横谷，2009）があるが、クリティカル・リーディングの指導を理論化できるほど長期的な実践や実践の積み重ねが行われていないのが現状である。大学では、異文化コミュニケーション能力育成の観点から批判的談話分析（CDA）を理論的背景としたクリティカル・リーディングの実践が行われている（Murata, 2007；村田，2008）。また、大学英語教育学会のクリティカル・シンキング研究会においても、異文化対処能力とクリティカル・シンキングのCan-doリスト化などを行っている。以上のように、近年、中等教育機関においてはPISA型の学力観をモデルに、大学英語教育においては異文化理解や異文化交流との関連でクリティカル・シンキングが注目されている。

(2) 海外の研究動向

教育の分野において批判的な視点を養う批判教育学（Critical Pedagogy）を理論的背景とした教育が実践されている（Norton & Toohey, 2004）。とりわけオーストラリアやイギリスでは、Halliday (1994)の選択体系機能言語学を援用したリーディングの実践が盛んに行われている。オーストラリアではBurns & Hood(1999)編著の*Teachers' Voice 3: Teaching critical literacy*にクリティカル・リテラシー教育のアクション・リサーチの結果がまとめられている。イギリスでは、Wallace (2003)が大学生以上の英語学習者を対象に、クリティカル・リーディングを長期的に実践し、インタビューやログなどの質的なデータから、クリティカル・リーディングで学習者が何を学び、また、教師がどのような役割を担うかについて論じている。英語を外国語として学ぶEFL (English as a Foreign Language)の国においても、クリティカル・リーディングの実践研究が行われている。例えば、トルコでは高校生を対象に(Icmez, 2005)、台湾では大学生を対象に(Ko & Wang, 2009)行っており、どちらの研究においても学習者はクリティカル・リーディングが英語学習にとって有効であると

述べている。また、クリティカル・リーディングが西洋的な思考法に基づくものであるにもかかわらず、非西洋的文化圏出身の参加者からの反発はなかったと報告している。EFLの環境においてもクリティカル・リーディングは行われつつあるが、まだ研究や実践の報告は少なく、また対象者は英語力や英語学習への動機づけの比較的高い学習者である。本研究は日本というアジア圏のEFL環境における中等教育段階の英語学習者を対象者としている点で研究がほとんど進んでいない分野であると言える。

2. 研究の目的

平成22年度から本研究者は英語教科書の批判的分析研究を行ってきた（平成22年度～24年度若手研究（B）、課題番号：22720231）。そこで明らかになったことは、テキストで使用されている言語と扱われている情報の両方に注目しながら、教師と生徒が共に分析的に読むことの重要性和難しさである。具体的にどのような観点でテキストを読めたら批判的に読めたと判断できるのかについては、まだ明確な基準やチェック項目が提示されていない。そのため、批判的に読む活動と言っても、教師はどのような発問や活動を与えたら良いのか、生徒はどのような点に着目してテキストを読んだら良いかが不明確である。したがって、本研究では、教授法開発の一部としてクリティカル・リーディングのための枠組みを構築する。クリティカル・リーディングの定義と教師の発問や活動作りに役立つ読みの枠組みや観点に加え、実際の発問や活動、生徒の解答の事例を作成する。

3. 研究の方法

(1) 文献研究

談話分析、批評理論、批判教育学、英語教育におけるリーディングに関する文献や資料を収集し、クリティカル・リーディングの理論と枠組みの構成要素のあり方について検討する。

(2) クリティカル・リーディングの枠組み構築

クリティカル・リーディングの枠組みの雛型は本研究者のこれまでの研究で作成済みである（平成22年度～24年度若手研究（B）、課題番号：22720231）。これを実践的なものへと改善するために、現職英語教員へのインタビューと枠組みを使用した英語リーディング授業の観察を行う。

インタビュー

作成した枠組みの問題点を明らかにするために、現職の英語教員にインタビューを行い意見を収集する。

クリティカル・リーディングの授業観察

クリティカル・リーディングの枠組みの
を利用した授業を現職の英語教員に行っ
てもらい、どのような活動や発問が行われ
るのかを観察する。

(3)研究成果の発表による意見交換

作成段階のクリティカル・リーディング
の枠組みを改善するための情報や知見を
得ることを目的に、国内外の研究大会で進
捗状況を発表し、参加者と意見交換をする。

(4)指導事例の作成

完成したクリティカル・リーディングの
枠組みを使用した中等教育機関における
英語リーディングの指導事例を作成する。

4. 研究成果

(1)文献研究

クリティカル・リーディングの理論と枠
組みの構成要素のあり方について検討す
るために文献研究を行った。批判教育学に
おけるリテラシー教育や批判的言語学に関
する文献研究の結果、本研究では、クリテ
ィカル・リーディングにおける「批判性」と
は、適切な基準や根拠に基づく論理的で偏
りのない思考といった論理性を重視した概
念だけでなく、社会、政治、歴史、文化的
なイデオロギーと関連した概念でもありと
考えた。また、コミュニケーションにおけ
る言葉の選択及び機能と社会、政治、歴史、
文化の関係を研究対象とする機能言語学を
援用した批判的談話分析の分析観点が言語
学習としてのクリティカル・リーディング
の指導に役立つと考えた。また Iser (1978)
や Eco (1992)等の批評理論に関する文献を
参考に、クリティカル・リーディングにお
ける「テキスト」、「書き手」、「読み手」
の関係を考察した。その結果、これらの関係
を本研究では以下のように考えた。「テキ
スト」とは書き手の意図が含まれたもの
であると同時に書き手の意図とは切り離さ
れたものである。「読み手」がいること
で、書き手の意図やテキストの意味が具現
化される。「読み手」は自由にテキスト
を解釈することが許されているが、解釈は
テキストから論理的な制約を受ける。以上
の文献研究から、日本の英語リーディング
の指導においてよく行われてきたテキスト
について「感想」を発表させるポスト・リ
ーディングの活動が、テキスト内の言語使
用とその解釈に焦点を当てて意見を発表さ
せる活動になると考えた。

(2)クリティカル・リーディングの枠組み構 築

本研究者がこれまでの研究で作成したク
リティカル・リーディングの枠組みの雛型を
実践的なものへと改善するために以下の2点
を行った。

インタビュー

作成した枠組みの雛型は、書き手の視点、

読み手の視点、その他の視点の3つの視点
それぞれに対して複数の問いが書かれた
ものである。この枠組みの問題点を明らか
にするために、高等学校英語教員2名にイ
ンタビューを行い意見を収集した。その結
果、枠組みがあることでどのように読めば
批判的に読めたことになるかという評価
規準を考える上で参考になるとの意見が
得られた一方で、枠組みで使用される表現
が抽象的でわかりづらいため、具体的な指
導事例や発問事例が必要であることが指
摘された。またクリティカル・リーディ
ングを行う際には、英語検定教科書に含ま
れるすべてのリーディング用テキストが使
用できるかどうかや、テキストのジャンル
によって批判的に読むことが難しいもの
もあるのではないかといった使用テキ
ストの内容とジャンルについての質問
や意見も得られた。

クリティカル・リーディングの授業観察

クリティカル・リーディングの枠組みを
活用した授業実践に関する知見を得るた
めに高等学校の英語リーディングの授業
観察を行った。授業では、枠組みに含ま
れている書き手の価値観や世界観を解釈す
る観点が入り入れられ、テキストの著者や
それを読んだクラスメイトの価値観を知
り、自分の考えと比較することが目的の活
動が行われた。活動は英語によるグルー
プ・ディスカッションの形式で行われた。
ディスカッション終了後は、話し手の意向
を正確に理解できたか、聞き手に伝わるよ
うに自分の意見を述べられたか、ディスカ
ッションに必要な英語を覚えて使用でき
たか、建設的にディスカッションに貢献
できたか、様々な価値観を評価できたかな
どを観点として、生徒が自分のディスカ
ッションのあり方を評価する振り返りの活
動も行われた。また、クリティカル・リー
ディングの活動で教師から与えられた問い
に対して生徒が英語でディスカッション
を行うためには、ディスカッションで必要
な英語表現の指導や意見の述べ方などの
指導が十分に行われていることも示され
た。

(3)研究成果の発表による意見交換

作成段階のクリティカル・リーディングの
枠組みを改善するための情報や知見を得る
ことを目的に、国内外の研究大会で進捗状
況を発表し、参加者と意見交換をした。その
結果、クリティカル・リーディングの枠組み
は教師だけでなく生徒自身も使用できるも
のだという意見が得られた。教師からの発問
に誘導されて批判的に読むのではなく、枠組
みを生徒用にわかりやすく書き換えること
で、生徒自身が発問を考え、主体的に読む
活動に取り組みめるようになるのではない
かとの意見があった。

その他、現職の英語教員を対象としたワー

クシヨップや講演会でクリティカル・リーディングの発問づくりの方法を紹介するなど、広く研究成果を周知した。

(4)指導事例の作成

上記(1)～(3)の取り組みから得られた知見を参考に、クリティカル・リーディングの枠組みを修正した。修正した枠組みは、テキストの「書き手」、「読み手としての自分」、「その他の読み手」の3つの視点から、テキストを根拠に解釈する「テキスト的解釈」と社会・文化的背景とテキストを関連づけて解釈する「社会文化的解釈」の2通りの解釈を促すキー・クエスチョンで構成するものとした。この枠組みを基に中学校英語検定教科書のリーディング教材の発問サンプルを作成した。これらの枠組みとサンプルの発問を活用したクリティカル・リーディングの指導事例を作成するために、2名の中学校英語教員に実践の協力を依頼した。その結果、テキストの内容理解にとどまらない行間を読む行為や書き手と生徒自身の文化や歴史的背景について考えながらテキストで使用されている表現を吟味する姿が見られた。その一方で、英単語の意味や文法の理解に困難を抱え、批判的に読むという行為に至るまでに時間がかかり、教師からの支援を必要とする生徒の姿も見られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Mayumi Tanaka, Appropriate pedagogy for critical reading in English in the Japanese secondary school context: An action research investigation, Unpublished PhD thesis (The University of Warwick), 332頁、2015年、査読有

田中真由美、英語の授業で文化を扱う際の問題点と可能性、中部地区英語教育学会紀要、第44号、175-182、2015年、査読有

[学会発表](計7件)

田中真由美、クリティカル・リーディング グローバル化に対応した英語教育に向けて、長野県英語教育研修会全県研究大会講演会(招待講演)、2015年10月16日

Mayumi Tanaka, Personal and interpersonal impacts on the process, outcomes, and presentation of an action research investigation on appropriate pedagogy for critical reading, British Association for Applied Linguistics Annual Meeting 2015 (Aston University, Birmingham, UK), 2015年9月3日～2015年9月5日

田中真由美、批判的に英語教科書を読む

ための発問づくり、信州大学教育学部附属長野中学校教育研究会分科会(英語)ワークショップ、2015年5月16日

Mayumi Tanaka, Developing a framework of questions for critical reading, British Association for Applied Linguistics Annual Meeting 2014, (The University of Warwick, Coventry, UK), 2014年9月4日～2014年9月6日

田中真由美、英語の授業で文化を扱う際の問題点と可能性、第44回中部地区英語教育学会山梨大会(山梨大学、甲府市)、2014年6月21日～2014年6月22日

田中真由美、クリティカル・リーディングの指導法—文化に対する多様な視点を養うために—、中部地区英語教育学会・長野地区2013年度第3回研究会(招待講演)、2013年12月7日(信州大学、長野市)

田中真由美、異文化理解の視点によるクリティカル・リーディングのための発問づくり—教授法及び教材開発に向けて—、第43回中部地区英語教育学会第富山大会(富山大学、富山市)、2013年6月29日～2013年6月30日

6. 研究組織

(1)研究代表者

田中 真由美 (TANAKA, Mayumi)

信州大学・学術研究院教育学系・助教

研究者番号：50469582